

二〇二一年度 総合学力評価テスト 読解表現総合

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は監督者かんとくしゃの指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受験番号

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

かつての高度成長期には、よい大学に入って、良い会社に就職して、その中でサラリーマンとして真面目に勤めれば、それなりの給料をもらえて、一生安楽と思われていました。

同じ会社のサラリーマンであれば、生活水準もみんな同じレベルで、「四〇になれば、だいたいこれぐらいの給料になる」とか、「五〇になればこのぐらいの地位にいる」というのがだいたいわかっていました。

ですがそういう「サラリーマンの時代」は、^①もはや終わったといえるでしょう。

安い給料で働く人がほかにいたら、その人に交代してもらおう——常にそういう競争にさらされつづけ、わたしたちは働いていかねばなりません。

誰でもできる仕事をしている人が、会社の良いポジションにいますれば、そういう人ほど月給は高いですから、会社にとってはコスト削減の余地が大きいわけです。

では日本で会社に残れるのは、いったいどういう人たちなのでしょう。

あるいは会社など関係なくビジネスの世界で生き残ってゆけるのは、どんな人たちなのでしょう。

それは、ほかの人に代わってもらおうことのできない仕事、スペシャリストの仕事です。

コンピュータでは真似できない、あるいはほかの人では真似できない、プロフェッショナルな仕事をする人たちです。

「わたしたちは^{*1}マーケットのなかにいる」ことをみました。

これからの時代には一つ一つの会社ではなく、^{*2}グローバルなマーケットのなかで人材の価格が決まるようになります。

これまでの日本では、一流企業にいれば、同じ仕事をしていても中小企業の人より高い給料をもらっていました。年齢も低い人よりは高い人のほうがもらっていました。

しかしこれからはどの国のどの会社においても、同じような仕事をしている人、同じ能力の人材は同じ給料となつてきます。

なぜなら世界的な人材の市場が生まれて、そこで人材の値付けが行われるようになってゆくからです。

そのときは、「君はどういうことのできる人ですか？」という話になってきます。

自分の「売り」になる特徴、人にはない特技、自分だけの得意分野をもっている人が、マーケットでは高く評価されるのです。

グローバルなマーケットのなかで生きていこうとする限り、日本も世界のほかの国と同じような二極化した社会構造に変わっていくことは避けられませんが、せん。

そこはほかの人でもできる仕事をする人と、ほかの人ではできない仕事をする人とに分かれた社会です。他の人に真似できない仕事をする人は人材と

しての価値が上がり、大事に扱われ、給料も高くなります。反対に誰でもできるような仕事をする人は、給料の安さで勝負するしかなく、給料はどんどん下がっていきます。

会社のなかでもスペシャリストとそうでない人が分かれてきて、そうでない人は給料の低さでみんなと争うようになっていきます。

「そんな社会はけしからん」という意見も、当然あります。

そういったマーケットの仕組みから、わたしたちの生活を守るのは、政治の役割です。あまりに突然、クビにされたり、給料を下げられたりすると、働くわたしたちの生活がたちゆかなくなってしまう。ですから経営者に無責任な雇い方ができないよう規制をかけたり、失業者には失業保険を設けて次の仕事を得るまでの資金を用意したりするのです。

ですが、わたしたちが理解しておく必要があるのは、たとえ政治の保護によって直接的な影響をいくらか和らげることができたとしても、わたしたちは、マーケットの仕組みから完全に逃れられるわけではないということです。

(榎原英資『君たちは何のために学ぶのか』(文春文庫)より)

*1 マーケット……市場。交換や売買が行われる場。

*2 グローバル……世界的な。地球規模の。

(1) ———線部①「もはや終わったといえるでしょう」とあるが、終わってどのようになるか、文章の内容に合っているものを二つ選び、番号で答えましょう。

- 1 良い会社に就職して真面目に勤めれば、一生安楽でいられるようになる。
- 2 会社に入ればいくつくらいになつたらどのくらいの地位にいるかが予定できるようになる。
- 3 同じ会社の同じ仕事ならば、年齢の高い人の方が低い人よりも多くの給料をもらうようになる。
- 4 どの国のどの会社においても、同じ仕事をしている人、同じ能力の人は同じ給料をもらうようになる。
- 5 他の人にもできる仕事を真面目にやる人は、高い価格の人材として大事に扱われるようになる。
- 6 スペシャリストとそうでない人とは、人材としての扱いや給料が分かれてくるようになる。

(2) —線部②「給料の安さで勝負する」とはどういうことを言っているのか、二十五字以内で書きましょう。

(3) この文章には、これからは「自分の売りになる特徴」「人にはない特技」「自分だけの得意分野」をもっている人が高く評価されると書かれています。この内容についてのあなたの考えを、次の《手順》と《きまり》にしたがって、四百字以上五百字以内で書きましょう。

《手順》

- 1 あなたが身につけたい、得意にしたいことはどのようなことか、具体的に書きましょう。(いくつ書いてもかまいません。)
- 2 1に挙げたことを選んだ理由を書きましょう。
- 3 1に挙げたことを身につけるため、また、得意なことにするためにどのようなことをしていきたいかを書きましょう。
- 4 1から3をふまえて、将来あなたはどのように生活したいと考えているかを書きましょう。

《きまり》

- 1 題名は書きません。最初の行から書き始めます。
- 2 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 3 段落を変えたときの残りのマス目は字数として数えます。
- 4 「、」や「。」やかっこなども一字に数えます。ただし、「。」と終わりのかっこは同じマスに書き、一字と数えます。
- 5 最後の段落の残りのマス目は字数として数えません。

